

九重に露をおけばや花の色の外の秋には匂ひまされる
百敷に花の色々匂ひつ、千とせの秋は君がまに

〔榮花物語^一の宴〕康保三年八月十五夜、月宴させ給はんとて、清涼殿の御前にみなかたわかちて前栽うへさせたまふ、左の頭には繪所別當藏人少將濟時とあるは、小一條の師尹のおとゝの御子、いまの宣耀殿の女御の御せうとなり、右の頭にはつくも所の別當右近少將爲光、これは九條殿の九郎君なり、おとらじまけじといどもみかはして、繪所の方にはすはまを繪にかきて、くさぐさの花、おひたるにまさりてかきたり、やりみづ岩ほみなかきて、まろがねをませのかたにして、よろづの虫どもをすませ、大井に逍遙したるかたをかきて、うぶねにかゝり火ともしたるかたをかきて、むしのかたはらにうたはかきたり、造物所のかたには、おもしろきすはまをゑりて、まほみちたるかたをつくりて、いろく^くのつくり花をうへ、松竹などをゑりつけて、いとおもしろし、か、れども歌はをみなへしにぞつけたる、

左方

君がためはなうへそむとつげねどもちよまつむしのねにぞなきぬる

右方

心してことしはにはへをみなへしさかぬ花ぞと人は見るとも、御遊ありて上達部おほく参り給て、御祿さま^{なり}なり、^{○又見内裏前栽合}

〔日本紀略^四村上〕康保三年閏八月十五日丙子、朝于飯御座前、兩壺分、方有前栽合、十六日丁丑、東宮同宴、

〔古今著聞集^十草木〕康保三年閏八月十五日、作物所繪所あいわかつて、殿の西の小庭に前栽をうへられけり、右大將藤原朝臣、治部卿源朝臣、朝成朝臣、中渡殿に候侍臣等、後涼殿のひがしのすのこ